

山北宮農だより

令和7年9月

TEL 75-1311 (宮農購買)

——【温州みかん】＊下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。——

この時期の病害虫防除は、収穫時の外観・品質へ大きく影響します。必ず実施しましょう。	
病害虫防除	8月下旬 ～ 9月上旬
○黒点病	<u>ペンコゼブ水和剤またはジマンダイセン水和剤 600 倍 166g／水 100 ㍓ 収穫 30 日前 4 回 ＊ 極早生に散布する際は、収穫日に気をつけてください。</u>
○ミカンハダニ	<u>ダブルフェースフロアブル 2,000 倍 50ml／水 100 ㍓ 収穫前日 1 回</u>
ミカンサビダニ	<u>又はダニゲッターフロアブル 2,000 倍 50ml／水 100 ㍓ 収穫前日 1 回</u>
○チャノカイガラムシ	スタークル顆粒水溶剤 2,000 倍 50g／水 100 ㍓ 収穫前日 3 回
9月中旬～10月下旬	
早生品種を中心に落果等のカメムシの被害が発生します。早生品種を栽培している方は、必ず、園地を見回り、防除しましょう。	
○カメムシ類	スタークル顆粒水溶剤 2,000 倍 50ml／100 ㍓ 収穫前日 3 回
	又はロディー乳剤（劇）2,000 倍 50ml／100 ㍓ 収穫 7 日前 4 回
スタークル顆粒水溶剤は 3 回使用できますが、大津四号、青島温州にも使用する場面も想定して散布を工夫してください。また、アルバリン顆粒水溶剤はスタークルと同じ剤のため、スタークルを 3 回散布した場合は使用できません。	

——【中晩柑】——

病害虫防除	8 月下旬～9 月上旬 基本防除はみかんの項参照		
＊ 中晩柑の防除における農薬の使用日数には十分に注意しましょう。			
例) ジマンダイセン水和剤 収穫 90 日前 12 月上旬収穫のものには散布できません。			
ペンコゼブ水和剤 収穫 90 日前 12 月上旬収穫のものには散布できません。			
○かいよう病（単用散布） コサイド 3000 2,000 倍 50 g／水 100 ㍓ (クレフノン 200 倍を加用)			
施 肥	中晩柑は秋季も窒素成分を切らさないようにしましょう。		
初秋肥 9 月中旬 特選みかん配合 655 140k g／10a (後期肥大促進・樹勢維持のため)			
＊ 10 月下旬にもう 1 度施肥を行います。 特選みかん配合 655 100kg／10a			

——【レモン】＊下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。——

病害虫防除	8月下旬～9月上旬
○ミカンハダニ	<u>ダブルフェースフロアブル 2,000 倍 収穫前日 1 回 50ml／水 100 ㍓</u>
ミカンサビダニ	<u>又はダニゲッターフロアブル 2,000 倍 収穫前日 1 回 50ml／水 100 ㍓</u>
チャノホコリダニ	
○かいよう病	<u>コサイド 3000 2,000 倍 50g／水 100 ㍓（クレフノン 200 倍加用）</u>
黒点病(単用散布)	
施 肥	中晩柑は秋季も窒素成分を切らさないようにしましょう。
初秋肥 9 月中旬 特選みかん配合 655 120k g／10a（後期肥大促進・樹勢維持のため）	
＊ 10 月下旬にもう 1 度施肥を行います。 特選みかん配合 655 100kg／10a	

——【湘南ゴールド】——

秋口の摘果では肥大促進効果は低いので、病害虫の被害が著しい果実と極小果を中心に仕上げシンニング（摘果）を行いましょう。裾枝・下垂枝の持ち上げ摘果で 2S 以下を無くしましょう。

仕上げシンニング (摘果)	9 月 20 日	3.9cm～5.4cm	このサイズを残し、 外観を中心に仕上げ摘果
	11 月 20 日	4.8cm～6.5cm	

仕上げ摘果・枝吊り

10 月以降果実の肥大は緩慢となりますので、その前に小玉果、傷果を摘果し、果実の大きさをそろえましょう。果実の重量で枝が折れたり、裂けやすくなるので、重たくなる前に、枝吊り、枝支えを必ず行いましょう。

病害虫防除および施肥	中晩柑の項参照
------------	---------

——【キウイフルーツ】＊下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。——

病害虫防除	9 月上旬
○果実軟腐病	<u>ベルコート水和剤 1000 倍 100g／水 100 ㍓ 収穫前日 5 回</u>
＊カイガラムシ多発園では 9 月上旬～中旬にトランスフォームフロアブル 2000 倍 50ml／水 100 ㍓ 収穫 3 日前 3 回	
＊カメムシ発生時はスタークル顆粒水溶剤 2000 倍 50ml／水 100 ㍓ 収穫前日 3 回	
施 肥	
9 月中旬と 10 月中旬に分肥 キウイ配合 100k g／10a	
後期肥大は、年間肥大の 20％程度あります。肥料の分肥は 9 月中旬に 60%、樹勢回復には 10 月中旬に 40% の 2 回に分けて行う事で効果が上がります。	

——【う め】——

夏季剪定	9 月中旬頃までに、縮間伐・立ち枝の間引きを実施しましょう。
樹の内部に光を入れることで、花芽分化の促進をします。また、夏季剪定の際に残す枝の葉を落とすと翌年の花芽分化に悪影響します。注意しましょう。	
※灰星病発生園での剪定について	
・結果枝（実のなる枝）に症状がある場合は、切り落とします。	
・被害が多い場合は、側枝単位で切り落とします。	
・樹全体に症状が広がっている場合は、健全な枝（緑枝など）を残し切り落とします。	
剪定枝は発生源になるので、必ず園外廃棄しましょう。	
○モモヒメヨコバイの発生が続く時は、防除しましょう。	
テッパン液剤 2000 倍 50g／水 100 ㍓ 収穫前日 2 回を散布する（散布回数を注意する）	

——【お 茶】——

施 肥	秋 肥 9 月中旬
秋肥は、貯蔵養分として来年の一番茶に利用されます。光合成が活発化する 10 月～11 月に貯蔵養分として吸収され、越冬芽の充実度に反映し、来年の収穫量を左右します。2 回に分肥し、1 回目と 2 回目の施肥の間隔は 20 日程度を目安とします。	
1 回目	8 月下旬 足柄茶配合 033 80 kg/10a
2 回目	9 月中旬 足柄茶配合 033 80 kg/10a
病害虫防除の徹底をお願いします。	
病害虫防除	8 月中旬 ～ 9 月上旬
○チャハマキ	ファルコンフロアブル 4,000 倍 25ml／水 100 ㍓ 摘採 7 日前 2 回
チャノコカクモンハマキ	

【水 稲】

水稻の生育状況

令和7年産水稻の生育状況は、草丈は平年よりやや長く、莖数は多く、葉色はやや薄い傾向です。出穂期はやや早い状況です。今後の気温は高い予報となっていますので、水管理などで稲への負担を軽減しましょう。

水管理

出穂後35日(収穫7日前頃)を目安に落水を行いましょう。(土壌条件にもよります。)
落水が早いと登熟が悪くなります。登熟不良や胴割れを防ぐために、完全落水は収穫作業に差し支えない範囲で出来るだけ遅らせましょう。

高温時対策

気温が高くなると品質の低下が起こりやすくなります。その対策として出穂期、登熟期の間断かん水、かけ流し、夜間入水を行いましょう。(特に、夜温が高い日はできる限り夜間入水して、水温を下げ、稲の呼吸による消耗を防ぎましょう)

収 穫

収穫適期は、穂に青籾がはるみ・キヌヒカリ・てんこもりでは15%残っている時期です。

平年の収穫目安 5月25日田植えの場合

はるみ・キヌヒカリ 9月14日頃 てんこもり 9月20日頃

乾 燥

収穫した籾は、ムレを防ぐため4時間以内に乾燥機に入れましょう。
コンバインで収穫した籾を急激に乾燥させると胴割れし易くなるので、風乾燥を4～5時間行い水分が20%前後になってから火力乾燥(40℃を越えない)し、玄米水分含量を14.5%～15%に調整しましょう。(循環式乾燥機をお持ちの方は、取扱説明書に従い作業を行いましょう。)

機械の取扱い

農作業の安全と品質の確保のため、機械は使用前に取扱説明書を読み、機械の性能にあわせて無理せず作業しましょう。

【野 菜】

タマネギ

播種の半月前までに、完熟堆肥(2kg/㎡)・苦土石灰(100～150g/㎡)を施し、よく土と混和しておきます。未熟堆肥の施用は、タネバエの発生を助長しますので避けましょう。

9月20日～25日を目安とし早生は早めに、中生は遅めに種をまきましよう。育苗日数は55日～60日を目安とします。

病虫害防除

○タネバエ ダイアジノン粒剤 5 300～500g/a 播種時または定植時 2回以内

＜注意＞農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。
・「収穫〇日前」：定められた使用時期。記載されている収穫前日数まで散布ができます。(前日は24時間前)
・「回数」：農薬成分の総使用回数のこと。栽培期間中、何回散布可能か確認しましょう。
※店舗により農薬の在庫状況が異なります。記載の農薬を購入される場合は事前に在庫確認をしていただくとスムーズに購入できます。

お米の出荷はJ Aへ!! ～令和7年産米の出荷をお願いいたします!～

○子ども達のために! 学校給食用米が不足しています!

県内全体で3,800トンが必要ですが、1,550トン以上不足しています!

○安定的な販売先確保のために

神奈川県ではJ Aに出荷することで確実に学校給食会などに販売され、出荷契約を結んでいれば出荷後すぐに概算金をお支払いできます。

○J Aに出荷し、学校給食への供給量を伸ばすことで、神奈川県産米の価格安定に繋がります!

【出荷契約された方】

出荷後、約1週間で「概算金」をお支払いします。また、契約数量に対し、**95%～120%までの範囲内で出荷されたお米には500円/1袋お支払いいたします。**(下限は小数点以下切捨て、上限は小数点以下切上げ)

出来る限り、**契約数量に対し100%以上**の出荷をお願いいたします!

【出荷契約をしていない方】

春に出荷契約を結んでいない方も、出荷することができます。ただし、出荷後に「概算金」をお支払いしますが、加算金はありません。出荷にあたっては所定の手続きが必要となりますので、営農経済センターにお問合せください。

※インボイス制度の都合上「組合員」名義で出荷いただく必要がありますのでご注意ください。

お問合せは営農経済センターまで

神奈川県 病虫害情報・予報

神奈川県病虫害防除部が発表した病虫害情報・予報のリンクを掲載します。安全で安心な農産物が安定的に生産できるよう、県全域の病虫害の発生状況調査と病虫害情報の提供を行っています。是非ご活用ください。

二次元コード



URL: https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2025_4_01.html